

### 3)フレンツ神父 ミサ中の説教 2020年4月15日

朗読 使徒言行録3：1-10

福音 ルカ24：13-35

私たちは今日もエマオの弟子の福音箇所を聞きました。教会の典礼が定めた今日の福音の箇所は、マリア・マグダレナがイエスの墓を訪れるところ(ヨハネ20章11-18)か、エマオの弟子のところですか。どの福音もそうですが、心に溶け込むまで、理解できるまで、私たちは何度も何度も同じ箇所のみことばを聞く必要があります。エマオの弟子たちが、「聖書を説明して下さったとき、私たちの心は燃えていたのではないか」と言ったように。

兄弟姉妹のみなさん、みなさんはきっと恋をしたことがあるでしょう。「あなたを愛している」「大好き」「あなたが必要」という言葉を何度も聞く必要があったのではありませんか？この簡単な言葉でさえ、心の中に沁みるまで、心から信じることができるまで、何度も繰り返し聞く必要があるのです。自分が誰かに愛されているということを知るのは、貴重なことです。この単純な言葉が、この世の中でもっとも重みのある言葉になり得ます。

福音書も同じです。みことばは、神の愛の言葉なのですから。神は、聖書の一つ一つの言葉を通して、「あなたはわたしの最も愛する子」「わたしの目に価値あるもの」「わたしはあなたを選んだ」と語ります。これらの言葉を使徒たちは三年間聞き続けました。「私たち自身にとって素晴らしい言葉だけれど、神の言葉を他の人にも知らせたい」とそれを後に書き留めます。聖書は宝物、神からの愛の贈り物なのです。

確かに今の私たちが置かれている状態は特別です。1ヶ月前は、こうしてカメラの前でミサ聖祭を祝うなどと、想像もしませんでした。毎朝、家や教会、あるいは外に立ち、カメラの前で今日の福音について話すなどと、考えもしませんでした。でも、今はそういう状態です。

本当なら今、私は日本にいるはずですが。今日から二週間日本にいて、日本の兄弟姉妹とともに信仰の分かち合いをし、黙想会を指導する予定でした。しかし、私は、今私たちは黙想会をしている、と強く感じるのです。日毎にアップロードしている福音についての考察をもって、そうしているのだと感じています。

みことばは自由です。神の言葉にかせを掛けることはできません。「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」マタイ24:35（ドイツ語では「決して過ぎ去らない」）とイエスは言われました。

みなさん、私たちはよくエマオへ向かう弟子たちのようにこう言うのではないのでしょうか。「私たちはこうあるように望んだ」「私たちは、この危機が早く過ぎるように望んだ」「あれも、これもこうあるように望んだ」。

私たちは色々と計画を立てますが、神のご計画は私たちのものとは異なります。私たちの道とは違うのです。私たちは、謙遜に単純に、神の道を行きましょう。私たちの日々において誰が権威を持っているのでしょうか？

エマオの弟子たちは思いました。「私たちはイエスに望みをかけていたのに、祭司長たちに訴えられて十字架につけられてしまった。無残な殺され方で死んでしまった。これはもう変えようがないことだ。終わりだ。エルサレムにはもう何もない。」

こうして彼らはエルサレムに背を向けたのです。

「イエスは実は死ななかつた、墓からでて他の国に逃れた」、などという伝説がありますが、イエスは実際に死んだのです。そして、神にとっても愛されていたので、実際に復活しました。みなさん、あなた方は神にとっても愛されているのです。ですからあなたも復活するのです。

今の私たちにとって、誰が権威を持っていますか？ 健康管理事務所ですか？ もちろん、健康には気をつけるべきですが、私たちにおいて権威を持たれているのは、天におられる御父です。私たちの権威は、みことばの後ろに立たれ、みことばを保証なさる方です。御父であり、イエスです。ご自身の御血でみことばの一つ一つにサインをされた方です。イエスは、撤回することのないご自身の言葉を私たちに与えられたのです。御父の愛と私たちの心に注がれた聖霊は、みことばを保証します。

みなさん、これで説教を終えますが、パウロがしたように、私たちも扉が開かれるように願い続けましょう。神のみことばを人に伝えることができるように。

この説教を聞いてくださったヨーロッパにお住まいの方々、ドイツ語を理解できる方々に、この黙想会に参加して下さるようにご招待します。みなさんとともに、この普通ではない黙想会を体験しつつ、互いに支え、強め合い、主において、主を通して、信仰において繋がっていきましょう。主が祝福して下さいますように。

父と子と聖霊の御名によって。アーメン